

教職大学院での

学びを回顧する

大阪市立喜連西小学校
教頭

北谷 晃久 さん

今号では、昨年、教職大学院を修了し、教頭として喜連西小学校に赴任された北谷晃久さんにインタビューを行いました。担当した仕事や役割を常に学びの機会と捉え、スキルや知識を得ていらっしやいます。大学院修了後の活躍と合わせてお伝えします。

今月号の内容

院生通信

大学院生活の振り返って

- ・ 大学院生活を振り返って
- ・ 大学院修了後のつながり

現在の研究について

- ・ なにわのグローバル教師に求められる資質・能力とは
- ・ 現在取り組んでいること

喜連西小学校 教頭として

- ・ 喜連西小学校に赴任して
- ・ グランドデザイン
- ・ 院生や教職大学院に通いたいと考える方へのメッセージ

編集後記

【院生通信】

大阪市教育センターで勤務している時に院生通信を作成していました。重視していたのは、教職大学院の様子や院生の生活を知ってもらうために、自分たちの現在を広報することです。読み手の先生方に伝わるように内容や言葉、感想などを工夫して作っていました。特にこだわったのは院生を紹介する記事を書く時です。インタビューした方のお人柄や頑張りが表現できたらと考えて、レイアウトや配色・字体等を工夫しました。インタビューをしている時から、「この人のイメージや考えを伝えるためには何色を使ったらいいかな」とか、「どんな字体にしようかな」と考えていたのを覚えています。院生通信を作っているうちに自然と表現する力がついていきました。院生通信で使うために楽しくイラストの勉強をしたことは、今でも役に立っています。そうやって努力したことは院生通信に表れていたかなと考えています。どんなことでも勉強して臨むことが大事だと感じました。

【大学院生活を振り返って】

修了して、改めて自分は周りの人に支えられていたと思います。大学院に通うのは2回目だったのですが、1度目の兵庫教育大学の大学院に通ったときは、17時に学校を出ないと間に合わなかったため、学年の仕事が思うようにできませんでした。その当時から同僚の先生方にたくさん助けていただきました。

2度目の大阪教育大学の教職大学院に通ったときは、大阪市教育センターに所属していましたが、グループの方には本当に支えていただきました。私の研究「学校組織マネジメントの活性化をめざした研修の開発 ―学校づくりを支える Teacher Agencyの形成に着目して―」では一緒に考えていただいたことも多くあり、一人ではできなかつたと思います。また、学ぶ環境を与えてくれた家族にも感謝しています。教職大学院での学びは、自分の可能性を広げることにつながりました。



【大学院修了後のつながり】

教職大学院を修了したメンバーとは今でもつながっています。昨年教職大学院で行われたサマーフォーラムでは、修了生と一緒に発表をしました。修了生どうし仲がいいと周りからよく言われます。会った時には近況報告をしたり、他愛もない話で盛りあがったりして、関係が続いているので、ありがたいと感じています。在学中から修了しても集まることを決めていたわけではなく、自然に集まっている感じです。私は、ちょうど新型コロナウイルス感染症が流行し、オンライン授業が開始された時期に教職大学院に入りました。1年間のオンライン授業を経て、キャンパスで仲間と顔を合わせた時のうれしさは忘れられません。在学中に会うことが少なかった分、会って話をする、仲がより深まるのを感じます。

教職大学院でお世話になった田中先生や庭山先生とも交流があったり、他市や他府県の方とのつながりもあったりするので大学院に関わる人と会うことがたくさんありますね。やはり、会って話をする、建設的な意見を交わす機会をもつことができ、在学中と同じく自分の課題について改めて考えることができていると思います。



【なにわのグローバル教師に求められる資質・能力とは】

教職大学院の授業「グローバルプログラムの開発」を受講した院生で、学んだことを発信したいと考えていたところ、担当の田中満公子先生から「授業で学んだことを1冊のテキストにまとめてみては？」とご提案いただき、みんなで作成することにしました。

このテキストはグローバル教育に求められることに焦点をあてることで、読者の教員経験年数に関係なく、皆が読みやすいように8つの領域や64の資質・能力の項目にまとめて用語ごとにページ設計をしています。例えば、各見開きのページには「現場が直面する課題⇒課題の根本にあるマインドセット⇒資質・能力をえるためのキーフレーズ⇒具体的なアクション」という流れをつくりました。このテキストが多くの教員や教職に関係する方にお役にたてればと思ひ、作成しました。

各ページの作成が終わった後、全体をまとめ、チェックをするのに1ヶ月ほどかかりました。私は出版社に編集したデータを送る担当でしたが、事前にテキストの編集について勉強して臨んだことで、出版社に持って行った時には、「こんなにしっかりしたデータをいただいたのは、この業界入って初めてです。」と言われました。

【現在取り組んでいること】

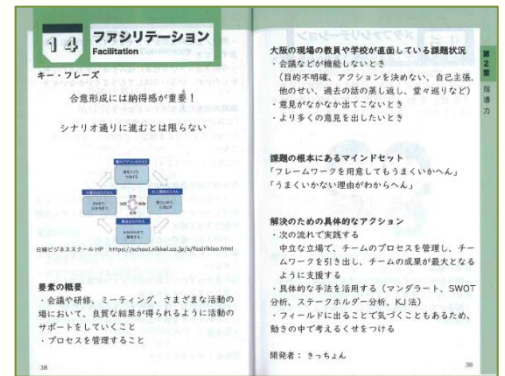
教職大学院で学んだ専門知識を生かして、様々な場で、お話をすることができています。先日は大阪教育大学3回生に研修を行いました。大学生に対しても、「なにわのグローバル教師に求められる資質・能力とは」のテキストを配布して、教師にとって必要な資質・能力に関して自分に足りないものは何かを振り返ったり、将来のために身につけたい力について確認したりしました。また、ゲストティーチャーとして大阪府の校長会にも参加しました。校長会では教職員につけさせたい力をテーマに話し合っていました。また、高校生の授業に参加しました。この高校には「教志コース」という将来教員をめざす高校生が集まったコースがあります。なぜ教員になりたいのか、将来どのような力を身に付けたいのかなどについて班で考えて、発表してもらいました。

日本教師教育学会で「教職大学院における理論と実践の融合への挑戦ー『なにわのグローバル教師に求められる資質・能力』の実践的開発を通してー」というテーマで発表しました。その後、マレーシアで開催された国際学会「WALS」で、代表の田中先生が同様のテーマで発表してくださいました。学会の発表によって、私たち修了生の視野も広がったと思います。



第1章 21世紀型スキル	
情報リテラシー	12
批判的思考力	14
論理的思考力	16
創造性	18
学び続ける力	20
レジリエンス	22
メタ認知	24
ラテラルシンキング	26

テキスト：なにわのグローバル教師に求められる資質・能力とは



テキストの一部：「ファシリテーション」

テキストに興味のある方は、大阪教育大学教職大学院のホームページ、または右のQRコードよりダウンロードください。



【グランドデザイン】

教職大学院には学校経営のビジョンを考える授業があります。学校経営は、教育目標の達成のため、組織全体で同じ方向で行い、教職員全員でビジョンを理解しておくことが大事です。グランドデザインは、学校経営で一貫性をもたせた教育をするために、教職員が意思決定するガイドラインになるイメージで作成します。来年度に向けた喜連西小学校のグランドデザインのもととなるイメージを現在作成中です。教職員が考えるときに、作成したグランドデザインを振り返って、意思決定できるものになればよいと考えています。



【院生や教職大学院に通いたいと考える方へのメッセージ】

学び続けることは大切で、その最たるものが教職大学院の学びだと思います。例えば教職大学院の授業において、自分がこれまで行ってきた実践と学んだ理論が結びつく時があり、新たな実践の方法や可能性に気がつくことがあります。実践するときの具体的なイメージをもつことができるのは、教職大学院での学びがあるからだと思えます。



また教職大学院には共に学ぶ仲間との出会いもあります。そして周りに対する感謝に気づくこともできます。でもやっぱり一番は教職大学院で学ぶことで、教員の仕事の素晴らしさに気がつくことができるのは、すごく大事だと思います。この通信を読んでくださっている人なら絶対気づくことができると思います。ぜひ頑張ってください。

編集後記

今号では令和3年度に教職大学院を修了された北谷先生にお話を伺いました。今でも教職大学院で出会った人とのご縁を大切にされて親交を深めていることや、研究を続けながら学会での発表なども精力的に行っていることをお話しされました。昨年3月末、大阪市教育センターで業務の引継ぎのために北谷先生と初めてお会いした際に、教員研修や院生通信など、仕事についてわからないことはとにかく調べてさらに工夫を施すことを繰り返し、自らの力にしてこられた方なのだと感じました。それは課題を見つけ、研究していく姿勢に通じるものがありました。そして1年経っても研究への志は変わることなく、さらに大学院での学びや経験を学校現場に活かしている様子を今回お聞きしました。志を同じくした仲間とつながり続けていることも、研鑽を続けられる理由の一つなのではないでしょうか。今回北谷先生のお話を伺い、教職大学院は、学び続けることの楽しさを知る場所であり、そして、特別な出会いがある場所なのではないかと思いました。

今年度院生通信をお読みくださった皆さま、ありがとうございました。来年度も教職大学院の魅力ある情報を発信していきたいと思えます。よろしく願いいたします。